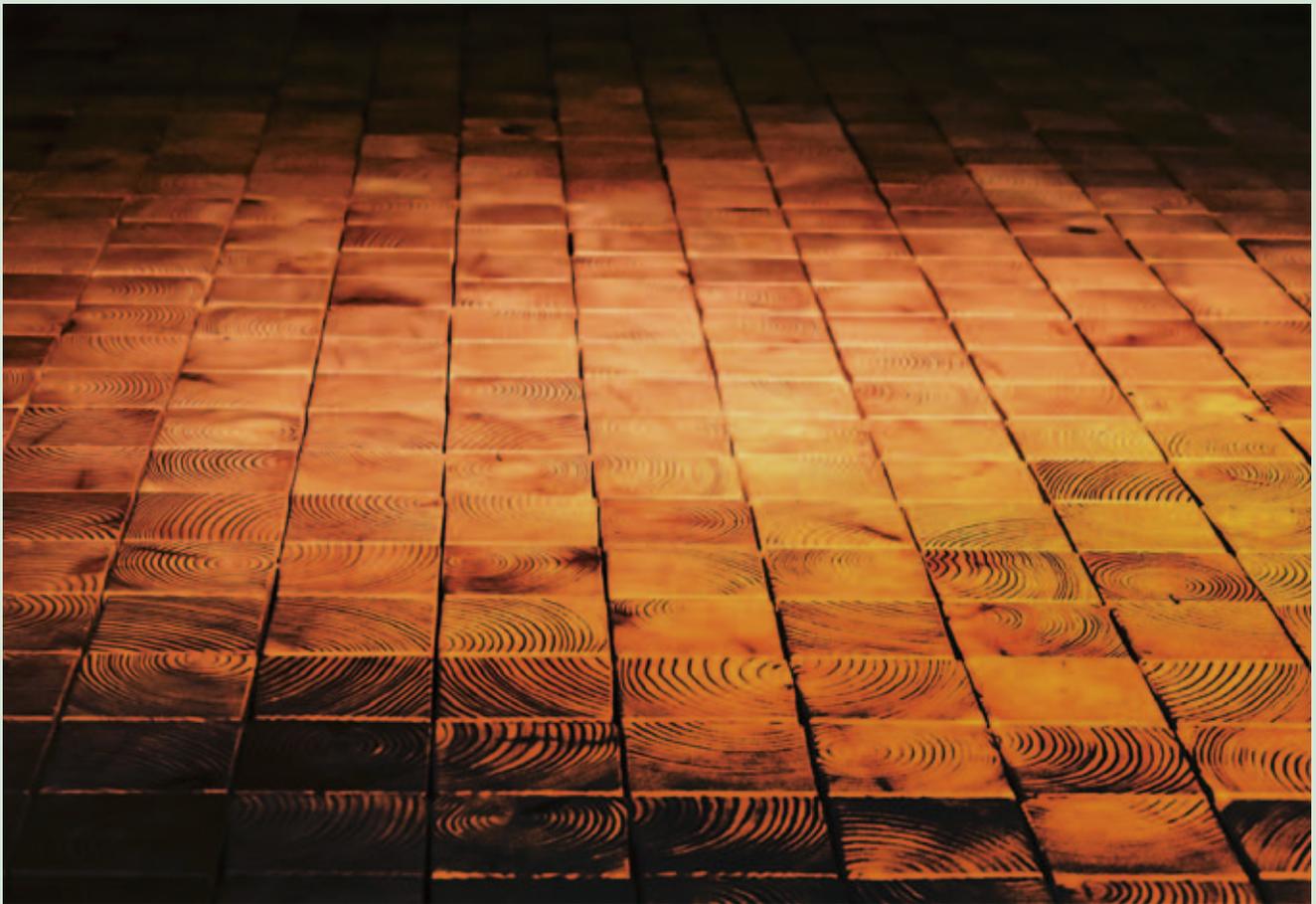




福島林業

No. **700**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 小檜山善継



12 2022

監 修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 木 目 ア ー ト



生き物の時間軸

公益財団法人ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団
理事長 菊池 壯 藏

ひよんな事から、『樹木たちの知られざる生活』（ペーター・ヴォールレーベン著、長谷川圭訳）のを知って、その文庫本を入手して読み始めました。二〇一五年に出版された本書は、なんと世界で一〇〇万部以上も売れているとの事です。著者は、ドイツで森林管理の仕事に携わっています。ヨーロッパの森林について観察を積み重ねてきたのですが、その注意深い考察によって、「モノ扱い」されることが多い樹木を、人間や動物と同じ様に、命を持って同じ地球上に暮らす「生き物の仲間」として理解すべきことを示しています。生物界を動物と植物に分けながら、人間につながる様々な動物の生命について思いを馳せることは多いものの、植物や樹木の生命活動については、ここまで考えてみることはなかったなあ、と反省させられました。

子供の頃に、親に連れられて「森は生きている」という劇団の公演を観た記憶も薄らと想い出されますが、そのようなファンタジーとは全く異なり、樹木の生命活動の時間軸を動物のそれと対比しながら、最新科学の成果を交えつつ解説する語り口には思わず引き込まれてしまいます。彼は、なによりもまず樹木を生き物として捉えます。そして、樹木たちの生誕から死ぬまでの過程を、あたかも動物の生活や生涯を見るように「ただし動物の寿命の観点から見れば、何世代にもわたるほどの長い期間に及びますが―その生命活動・生活を暖かい眼で観察し、豊かな筆致で記述しています。文庫本のカバーに記載されているフレーズによれば、「木は会話する」、「助け合う」、「子育てする」、「数をかぞえる」、「移動する」、など驚くような記載に満ちています。

私たち人間の寿命から見れば、昆虫や草本、または小動物たちの世代交代は遥かに短期間なものです。そこから、様々な生命活動のあり様について研究や観察・実験が行われ、人間の生存にとって「有益な結果」が導き出されてきました。これに対して、樹木たちの自然的生涯は人間という生き物の数世代分に相当するわけです。地上に存在する命を生態系全体の中に置いて考え直してみるきっかけでした。生物の多様性を、単に種の多様性ばかりでなく、それぞれの命の時間軸の多様性という視点で考える事も必要なのだ、と思いを知らされたわけです。「持続可能性」というスローガンの中にも本来含まれているはずの「時間軸」の視点、それを今、改めて噛み締めております。

《も く じ》

とびら

生き物の時間軸

公益財団法人ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

理事長 菊池 壯 藏…………… 1

第47回福島県林業祭を開催しました!!… 2～3

令和4年度福島県林業コンクール…………… 3

第73回福島県学校関係緑化コンクール…………… 4

第25回福島県森林組合連合会良質材展示会… 4

令和4年度福島県きのこ品評会を開催…………… 5

第19回ふくしま森林・林業写真コンクール… 5

第34回ふくしま緑の百景歩こう会を開催しました… 6

第56回全国木材産業振興大会・福島大会が開催される… 7

林業アカデミーふくしま研修日誌⑦…………… 8

「新たな森林づくり」⑤…………… 9

森連だより…………… 10

木の文化を育む④…………… 11

木材市況・ふくしま東西南北…………… 12

はなしのひろば・お知らせコーナー…………… 13

第47回

福島県林業祭を開催しました!!

福島県林業祭実行委員会

福島県林業祭は、恵み豊かな森林を守り、育て、木材などを生産する「林業」の魅力と重要性を県民の皆様幅広くPRするお祭りとして、昭和五十一年から開催しています。

四七回目となる今年は、十月二二日（土）に林業研究センターで開催しました。

今年も新型コロナウイルス感染症対策として参加事前申込制として、イベント内容によって会場内を六つのエリアに分け、来場者の皆様によりわかりやすく林業の魅力を感じていただけるよう、見学・体験型イベントを充実させる等の工夫を行いました。



そまびと体験エリア



未来の杉人育成エリア



チェーンソーアート



木の匠エリア



第1回ふくしま伐木チャンピオンシップ

平成三〇年度以来、実に四年ぶりとなる林業研究センターでの林業祭は、この日を楽しみにされていた方々の声が多く寄せられたほか、天候に恵まれたこともあり、予定を上回る約一、一〇〇名の方々に御来場いただきました。

また、今年九月に「林業アカデミーふくしま」の研修施設が完成し、来場された皆様へのお披露目も兼ねて、屋外の「そまびと体験エリア」では、高性能林業機械の試乗、施設内の「未来の杉人育成エリア」では、施設見学、アカデミー相談会のほか、研修生自らが企画した木工体験コーナーやドローン、ハーベス

タシミュレーターでの操作体験コーナーを設け、たくさんの方々にも「林業」という仕事に触れていただきました。

「木の匠エリア」では、木工体験教室や草木染め、木製品の販売、「チェーンソーアートショー」が行われ、丸太から生み出される可愛らしい兎の姿に観客が見入っていました。

また、今回初めて開催した伐木造林技術の競技会「第一回ふくしま伐木チャンピオンシップ」では、県内の林業従事者、アカデミー研修生のほか、日本大会のチャンピオン二名が出場し、簡易伐倒や枝払いを通じて、作業の安全性、正確性、スピー



森林の魅力発見エリア

ドの基準で杉人（そまびと）の技術を競うとともにその格好良さをアピールしました。

「森林の魅力発見エリア」では、緑の相談室や苔玉体験教室、ペレットストーブ展示、漆器販売といった森林レクリエーションや森林文化に関するブースと、緑の募金や森林保険などのPRが行われました。

「きのこまつりエリア」では、県政PRコーナー、きのこ品評会において県内の生産者から出品された選りすぐりのきのこが販売され、多くの人々で賑わいました。

午前中にメインステージエリアで行った「未来の杣人の主張」では、アカデミー研修生三名がそれぞれの林業への想いや展望を大声で主張し、観覧していた方々から多くの拍手が上がりました。

午後に行われた「森のオークション」では、「チェーンソーアートショー」にて製作された作品をはじめ、県内各地より集めた森林の魅力あふれる逸品が、次々と元気なかけ声で競り落とされました。オークションの売り上げは「緑の募金」に寄付いたしました。

会場内の各エリアに設置されたスタンプラリー「森林を遊びつくせ!」は、林業機械の試乗や木工など各種体験を通じてスタンプを集めるもので、集めた方には抽選でお香セットや漆器、森林環境税オリジナルグッズなど様々な景品がプレゼントされるとあって、参加者が会場内を巡回している杣人を探し出し、スタンプをもらうミニゲーム「杣人を探せ!」と合わせて今年も多くのの方々に楽しんでいただけました。

今年もまだコロナ禍にあり感染症対策を実施しての開催となりましたが、出展者や出演者の皆様など多くの方々の御協力により、無事に林業祭を開催することができ、この場をお借りして関係者の皆様には深く御礼を申し上げます。今後も皆様方とともに工夫を重ねながら、森林・林業・木材産業の魅力を発信するため、林業祭をさらに盛り上げてまいりたいと考えていますので、引き続き御協力をよろしくお願いいたします。



森のオークション



きのこまつりエリア



山林苗畑部門県知事賞の苗畑
(有限会社加藤樹苗園 代表取締役 加藤 登)

福島県林業コンクールは、林業技術の向上と林業経営の改善を図り、本県林業の発展を推進することを目的として開催しています。
今年度は、十一件の応募があり、森林計画課、森林整備課職員等による現地審査の後、九月十四日に森林・林業関係団体等の代表者からなる審査委員会を開催し、各賞の受賞者を決定しました。
今年度は、山林苗畑において、コンテナ苗生産用機械を改良することによる生産性向上への創意工夫や、森林育成における、間伐の必要性を理解した計画的な間伐実施の努力が見受けられる審査結果となりました。
今後とも林業経営者の方々の林業技術向上がより一層図れるよう、引き続き開催してまいります。

令和四年度 福島県林業コンクール

福島県森林計画課

部門別表彰者

一 山林苗畑部門

福島県知事賞

有限会社加藤樹苗園代表取締役

加藤 登

福島県農林種苗農業協同組合代表

古川 一男

福島県森林組合連合会代表理事会

長賞

合同会社うえだ

代表社員 上田 浩明

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会長賞

株式会社グリーンラボ

代表取締役 須藤 秀治

二 森林育成(造林)部門

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会長賞

南会津町

町長 渡部 正義

三 森林育成(間伐)部門

福島県知事賞

福島県木材協同組合連合会長賞

福島県森林組合連合会代表理事会

長賞

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会長賞

赤埴山組合委員長 笠間 正

農林中央金庫福島支店長賞

福島県林業経営者協会長賞

鈴木 達秀

福島県林業経営者協会長賞

鈴木 辰男

第七三回

福島県学校関係緑化コンクール

福島県森林計画課

当コンクールは、児童・生徒の緑化活動及び学校における環境教育の一層の推進を図るため、福島県及び福島県教育委員会の共催により毎年開催しています。今年は九件（学校林等活動の部二件、学校環境緑化の部七件）の応募があり、県審査委員会の審査により、表彰者を決定しました。

このうち、最優秀賞（県知事賞）は次のとおりです。

1 学校林等活動の部

- ・会津若松市立川南小学校
学校裏のクヌギ林と敷地内の樹木を使用して人里の生態系を学ぶ



学校林での活動の様子
(会津若松市立川南小学校)

2 学校環境緑化の部

とともに、校外ではNPO法人が管理する森林での作業を通して環境保全や産業資源としての森林を体験的に学習しています。

- ・会津若松市立大戸小学校
児童が各自考えてプランターに草花を植栽し、自発的に手入れを行っている。

また、地域にある公共施設にプランターで育てた花を送り、学校のみならず大戸町全体の環境美化に貢献するなど幅広い活動を行っています。



学校環境整備の様子
(会津若松市立大戸小学校)

第二五回

福島県森林組合連合会良質材展示会

福島県森林組合連合会

第二五回福島県森林組合連合会良質材展示会を、十月十七日（月）、いわき木材流通センターにおいて開催いたしました。

この行事は、林野庁、関東森林管理局、福島県、福島県木材協同組合連合会からのご後援をいただき、毎年当センターの記念市と同時に開催しております。

生産技術の改善向上や木材品質の向上、福島県産材の優秀性を広く紹介し、また木材需給の安定に寄与することを目的に開催回数を重ねてまいりました。

審査は十月五日（水）、当センターにおいて福島県、福島県木材協同組合連合会、買方者代表の方々に協力いただき、県森連を含め計五名が行いました。

「審査の流れ」

第一次審査 材の数量規定、造材技術や商品価値を満たしているかなどを審査します。

第二次審査 第一次審査で選出された材種及び材種区分ごとに審査し、各賞を決定します。

今年度の審査結果につきましては、表2「受賞者名簿」のとおりとなっております。ご出展いただきましたありがとうございます。

また、これまで良質材展示会の開催を続けてこられたのも、出荷者、買方者の皆様のご協力並びに関係機関のご指導ご協力があったことと、こ



林野庁長官賞のヒノキ通し柱
(いわき市 緑川農林 緑川平隆)

(表2) 受賞者名簿

賞名	受賞者名	樹種	長級(m)	径級(cm)
林野庁長官賞	緑川農林 緑川平隆	ヒノキ	6.00	18-20
関東森林管理局長賞	矢吹農林 矢吹光	スギ	3.65	40
福島県知事賞	ふくしま中央森林組合 いわき市森林組合	スギ	4.00	46-50
福島県木材協同組合連合会長賞	代表理事組合長 田子英司	スギ	3.65	42-46
福島県木材協同組合連合会長賞	株式会社サンライフ 代表取締役 水野喜文	スギ	3.00	18-20
福島県森林組合連合会長賞	有限会社志賀林業	スギ	4.00	40-44
福島県森林組合連合会長賞	石嶋商事 石嶋美智男	スギ	6.00	18-20
福島県森林組合連合会長賞	大原林業 代表 水野郁夫	スギ	3.65	44

(表1) 審査基準

審査項目	審査対象
育林技術	節の有無・大小
	年輪幅
	材の曲がり
	材のまる身・偏心
造材技術	材の光沢・色彩
	枝はらい
	材の切断面
延寸	
総合	商品価値・市場性

の場をお借りし改めて感謝申し上げます。当センターは、流通施設としてSGEC/CoC認証を取得するなど県内森林組合系統の唯一の木材市場として、買方者の皆様に福島県産材を安心して求めたいだけのように、供給体制の強化に全力で努めてまいりますので、今後も当センターをご利用下さいますようお願いいたします。

令和四年度

福島県きのこ品評会を開催

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会

きのこ振興センター

令和四年度福島県きのこ品評会は、十月二一日（金）に県林業研究センターで開催され、総出品数一〇四点の中から、最高賞の農林水産大臣賞に生しいたけの部菌床栽培部門の大野一宏氏（天栄村）が輝きました。この品評会は、例年当協会と福島県きのこ振興協議会が、福島県をはじめ関係団体の後援をいただき、福島県きのこまつりの一環として実

施しているものです。翌二二日（土）に同じく林業研究センターで開催された第四七回福島県林業祭では、品評会の入賞および出品作品の展示・販売会を行い、大勢の来場者で賑わいました。また、近隣のホテルバーデンでは表彰式が執り行われ受賞者の栄誉を讃えました。各賞の受賞者は表のとおりです（敬称略）。



審査会の様子



農林水産大臣賞

受賞者一覧

賞名	受賞者名	市町村	部門
農林水産大臣賞	大野 一宏	天栄村	生しいたけの部 菌床栽培部門
林野庁長官賞	箭内 幸一	田村市	生しいたけの部 原木栽培部門
	鈴木 吉一	磐梯町	乾しいたけの部
福島県知事賞	田崎 眞平	西会津町	なめこ・ひらたけの部
	横田 富夫	郡山市	生しいたけの部 原木栽培部門
	佐治 卓郎	郡山市	生しいたけの部 菌床栽培部門
	佐藤 栄喜	磐梯町	乾しいたけの部
安田 潤一	郡山市	なめこ・ひらたけの部	
福島民報社代表取締役社長賞	古川 政善	郡山市	生しいたけの部 原木栽培部門
福島民友新聞社代表取締役社長賞	有限会社遠藤きのこ園	川内村	生しいたけの部 菌床栽培部門
全国椎茸商業協同組合連合会理事長賞	富士ソフト企画株式会社 中村 寛基	西会津町	乾しいたけの部
日本特用林産振興会会長賞	土橋 正幸	南会津町	なめこ・ひらたけの部
	齋藤 憲一	伊達市	生しいたけの部 原木栽培部門
公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会会長賞	山田 康人	福島市	生しいたけの部 菌床栽培部門
	株式会社小川きのこ園 有限会社加茂農産代表取締役 加茂 直雅	いわき市	なめこ・ひらたけの部
福島県農業協同組合中央会会長賞	西会津しいたけファーム 土田 杏子	西会津町	生しいたけの部 菌床栽培部門
全国農業協同組合連合会福島県本部賞	小野 勲	小野町	生しいたけの部 原木栽培部門
	愛椎ファミリー	郡山市	生しいたけの部 菌床栽培部門
福島県森林組合連合会代表理事会賞	有限会社鈴木農園 代表取締役 鈴木 清	郡山市	なめこ・ひらたけの部
	大橋 茂美	伊達市	生しいたけの部 原木栽培部門
福島県きのこ振興協議会会長賞	三留 良司	西会津町	生しいたけの部 菌床栽培部門
	農事組合法人 いわき菌床椎茸組合	いわき市	乾しいたけの部
	三浦 久義	伊達市	なめこ・ひらたけの部

（最優秀賞、優秀賞及び特別賞の入賞者）

区分	賞の種類	入賞者		
		市町村	氏名	題名
最優秀賞	福島県知事賞	福島市	高橋 勝美	年輪を切る
優秀賞	公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会会長賞	石川町	小林 正義	春の日射しを浴びて
		福島市	涌井 弘巨	木目アート
		須賀川市	佐藤 浩之	薪割り
特別賞（一般の部）	一般財団法人福島県林業会館理事長賞	鏡石町	熊田 行雄	御柱祭!!
特別賞（職生以下の部）	公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会会長賞	いわき市	飯山 悠大	作業中

第十九回

ふくしま森林・林業写真コンクール

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会

ふくしま森林・林業写真コンクールは、森林の大切さとそれを支える林業の重要性を県内外に広く発信することを目的に、毎年度開催しています。本年度の応募者数は五〇名、応募作品数は一四点と多数の応募があり、十月五日、県写真連盟高橋良雄様を審査委員長に、県及び林業団体で構成する審査委員会において厳正に審査し、入賞作品を決定しました。十月二二日（土）郡山市安積町（ホテルバーデン）において令和四年度福島県林業コン

クール等表彰式が行われ、受賞者と入賞作品を讃えました。入賞作品の展示は、同日開催の第四七回福島県林業祭の会場と、十月三一日（月）から十一月四日（金）まで県庁連絡通路に展示し、写真を通して頑張る林業の姿を広くPRしました。今後は「林業福島」の表紙に適宜掲載してまいります。

第19回最優秀賞受賞作品



作品名「年輪を切る」

この作品は、2023年1月号の表紙に掲載します。

最優秀賞（県知事賞）作品の講評

大木をチェーンソーで切っているシンの写真が画面いっぱいには伝わってくる見事な写真です。逆光をうまく利用して飛び散る木くずが躍動感を引き立て大木とチェーンソーだけで力強さを感じさせる表現力が、写真は引き算だと言う事を証明してくれる素晴らしい作品です。入賞作品は当協会のホームページでご覧いただけます。



第34回

ふくしま緑の百景
歩こう会を開催しました

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会 緑化推進局

ふくしま緑の百景歩こう会は、昭和六〇年の国際森林年を記念し、ふるさとの森や樹木の大切さを見直し、その美しさを守り育てることを目的に選定された県内の緑の百景をウォーキングコースとして、地元市町村、福島民報社、当協会の共催により平成元年から毎年、開催しております。

今年で三四回目となる歩こう会は十月二三日（日）、十一年ぶりに全線開通したばかりのJR只見線の只見駅前をスタート及びフィニッシュ会場とし、多くの方々にご参加いただきました。

大会当日は、朝まで降っていた雨も止み、参加者は晴れ間がのぞく中、水神を祀る滝神社、只見地区を望むことができるヒメサユリが自生する「ゆり平」、縁結びの三石神社の参道、その後、ただみ・



オープニングアクト「長浜女子和楽坊」



開会式「テープカット」

ブナと川のミュージアム、Jパワー只見展示館、只見ダム周辺など、約一〇キロのコースでの四つのチェックポイントを巡り、秋の只見の豊かな自然を満喫しました。

フィニッシュ後は、完歩した参加者全員に只見線の車両がパッケージになった新米の地元産コシヒカリやトートバッグ、緑化用苗木（コハウチワカエデ、ヤマボウシ、ウメモドキ、ナツツバキ、シモツケ）などの

プレゼントをお渡しし、大会を締めくくりました。

コロナ禍が続く中、今回の歩こう会においても、昨年と同様に参加者数を制限するとともに、参加者の地域を県内に限定し、新型コロナウイルス対策を徹底し開催しました。

平成からスタートした歩こう会が、令和の時代になり、新型コロナウイルス感染症の影響下でも参加者の皆様のご協力のもと、継続して無事に開催できたことに、心より感謝申し上げます。今後とも皆様のご参加をお待ち申し上げます。



ゆり平に向かう遊歩道を歩く参加者



第3チェックポイント「そばろパンの配布」



苗木の配布

第五六回

全国木材産業振興大会・福島大会が開催される

福島県木材協同組合連合会

「ウッドチェンジ！ー暮らしにもっと木を取り入れようー」を大会テーマに、全国木材組合連合会と全国木材協同組合連合会の主催による第五六回全国木材産業振興大会が十月二七日、磐梯熱海温泉ホテル華の湯で開催されました。本大会は毎年、全国各ブロックの持ち回りで開催されるもので、今年は昨年の北海道に続き東北支部での開催となり、福島県が当番ということで準備を進めてまいりました。

全国大会が本県で開催されるのは今回が初めてで、森重樹林野庁次長、井出孝利副知事、渡辺義信県議会議長、品川萬里郡山市長らのご来賓の出席の下、全国から約四三〇名が出席し、大会は三部構成で行われました。

第一部の大会議事では、鈴木裕一県木連会長が「本大会は、伐って、使って、植えて、育てる森林の循環利用と木材利用の一層の拡大に向けた大きな契機としたい」と歓迎の挨拶の後、菅野康則全木連会長が「国産材が長期に利用されるよう建築物

の木造化などを推進し、カーボンニュートラルの実現に貢献するとともに国土強靱化、森林・林業・木材産業の再生による地方創生に役割を果たしていく」と述べられました。次に、株式会社ウッドコアの相澤貴宏取締役より浪江町の福島高度集材製造センターによる、木材加工を通じた福島の復興の取組について報告があり、その後、福島県木材青年協会の山崎和昭会長から大会宣言決議案が力強く読み上げられ、全会一致で採択されました。



大会の様子

第二部では、県酒造組合特別顧問で、県日本酒アドバイザーの鈴木賢二氏より「ふくしまの日本酒全国新酒鑑評会金賞受賞数九回連続日本一の軌跡」と題して講演が行われ、福島のおいしい日本酒について面白可笑しく紹介されました。

第三部は各種表彰が行われ、松原正和全木協連会長の挨拶の後、各種表彰が行われ、本県からは、全木連会長表彰として米山英敏氏（県木連理事）と高梨彰氏（前県木連理事）が表彰されました。大会式典が滞りなく執り行われた後、同ホ



歓迎あいさつ（鈴木県木連会長）

第56回 全国木材産業振興大会
ウッドチェンジ！
ー暮らしにもっと木を取り入れようー
スローガン

- 一、都市（まち）の木造化等木材利用を積極的に働きかけるとともに、国民の理解の醸成に取り組もう
- 一、森林資源の循環利用のため、山元への利益の還元と再造林できる体制の構築に取り組もう
- 一、木材産業振興のため、予算の確保、税制特例措置の継続に取り組もう
- 一、新たな木材需要を創出するため、技術開発・普及等に取り組もう
- 一、合法伐採木材やJAS製品等、品質・性能の確かな木材供給や人材の育成確保に取り組もう
- 一、木材産業従事者の労働安全確保に全力を挙げ、死亡災害絶滅に取り組もう

テル内において三年ぶりに懇親会が開催され、福島のおいしい料理とお酒に舌鼓をうちながら活発に情報交換が行われ、今後の木材産業の発展に向け思いを新たにするとともに、本大会の開催に当たりご協力を賜りました関係行政機関、関係団体の皆様に御礼を申し上げます。



大会宣言決議（山崎県木青協会会長）

林業アカデミーふくしま研修日誌⑦

福島県林業研究センター

就業前長期研修七ヶ月目。研修生たちは日々を楽しみながら知識や技術向上を目指しています。

○十月の研修内容

研修生は二回目の「インターンシップ」を二週間にわたって行いました。研修生が就業を検討する県内各地の十七の林業事業体に受け入れていただきました。ご協力いただきました皆様、ありがとうございます。研修生たちは、現場で働く先輩方の技術の高さを目の当たりにし、それに少しでも近づくために必要な課題を自ら見出すなど、意義深い経験となったようです。

「森林文化」や「薪・木炭生産」講座では、薪割りや木炭づくり、更に、それらを燃料として野外調理を行いました。その後、自ら木材を加工し、思い思いに設計した椅子や目立て台などを作成しました。森林がもたらす恵みの一端に触れる貴重な機会となりました。

第四七回福島県林業祭では、端材お絵描きブースを研修生自ら運営し大盛況となったほか、第一回ふく

ま伐木チャンピオンシップ（FLC）二〇二二や未来の柚人の主張にも参加しました。

「造林・更新」では、地拵えと植栽の実習を行いました。地拵えでは、次の工程を円滑かつ楽に行えるように考えて作業することの大切さを知ったほか、裸苗を植栽したのちに専用器具を用いてコンテナ苗を植栽し、どれだけ効率や疲労度が変わるかを実感しました。

○研修生の感想 松本健成さん

私が印象に残っている研修は二つあります。

一つはインターンシップです。私は、就職先を決めるにあたり、複数の候補がありとても悩んでいました。インターンシップでいろいろな会社の仕事内容や職場の雰囲気などを知ることができ、とても参考になりました。おかげで、希望



FLCで接地丸太輪切り競技に臨む研修生



野外キッチン。ごはん、ピザ、スープなどを皆で調理し食べました



コンテナ苗植栽のための穴をディンプルであける研修生

就職先を決めることができました。もう一つは森林文化の講義の中で行った野外キッチンです。自分たちで作った料理をみんなで食べている話を聞いて思い出の一ページに刻まれました。

今後はチェーンソーでの伐倒技術を高めていきたいと考えています。将来立派な柚人になれるように頑張っていきたいです。

○研修生の感想 池田竜太さん

四月に入講してから、あつという間に半年が過ぎ、後期の中盤に入ろうとしています。

十月初頭から、私たち研修生は福島県内の林業事業体へ二週間のインターンシップに行きました。私は池田林業にお世話になり、刈り払いや間伐、重機操作を中心に経験しました。研修で勉強したこと、現場での実践は、勝手が違うことが多くあ

ることがわかりました。また、プロの仕事は一つ一つが正確で速いことにびっくりしました。従業員の方へは大変ご迷惑をおかけしましたが、就業前に貴重な経験をすることができました。ありがとうございます。

十月半ばには林業祭があり、私たち研修生も参加しました。その中で、私はふくしま伐木チャンピオンシップ（FLC）に参加し、伐倒方向や丸太合わせ輪切り、接地丸太輪切りの正確さを競い合いました。私は前日までたくさん練習したのですが、本番ではなかなか結果を出せず、最下位となってしまいました。この悔しい思いを忘れずに練習に励みたいと思います。

半年林業に関わってきましたが林業はとても奥が深くやりのある仕事だと改めて感じました。残り半年も初心を忘れずに仲間達と切磋琢磨していきたいと思います。

シリーズ「新たな森林づくり」⑤ 伐採後の再造林に向けた取組 森林整備事業（森林機能維持事業）

福島県森林整備課・会津農林事務所

一、森林整備事業の概要

森林の公益的機能を将来にわたって発揮させていくためには、適切な森林管理のもと「伐って、使って、植えて、育てる」という循環利用を行うことが必要です。

本県のスギ・ヒノキ等の人工林は、その約六割が五〇年生以上の林齢で、本格的な利用期を迎えています。これら県産材の利用を見据え、人工林の更新を図る必要があります。そこで県では、特に公益的機能が高い森林を対象に集約化を図り、伐採と再造林等を支援する事業として「森林整備事業（森林機能維持事業）」を創設しております。

補助対象の主な内容

- ①一貫作業システム（伐採と造林を連続して実施）する場合の補助（300万円/ha上限）
- ②一般造林事業で実施する再造林、初回下刈の嵩上げ補助（自己負担分32%を嵩上げ）

二、取組の紹介

会津農林事務所管内で、林業機械を用いて一貫作業を実施した箇所の取組事例を紹介します。

一貫作業システム実績

年度	事業体数	面積ha
R元	-	-
R2	2	4.74
R3	3	4.72
R4	4	8.93
実事業体数 5		計18.39

会津農林事務所では、令和二年度から実施しており、今年度は約九割を計画して

います。当該事業が始めた令和元年度は、事業体への周知が十分でなかったこともあり、実績は

ありませんでした。そこで、当所では、林業事業体を戸別訪問して事業内容の説明を行いました。その結果一貫作業システムの理解が進み、実施面積が徐々に増加しております。

実施した林業事業体からは、「当該事業の利用により、森林所有者へ伐採と再造林を促しやすくなった。」といった声があったほか、現場作業

の感想として、地拵えを同時に行えることや、苗木の運搬も機械で運べるなど実施する林業事業体にとっても植栽作業の軽減が図られ、再造林のコスト縮減にもメリットがあることを実感しております。また、コンテナ苗を活用することで、植栽可能時期も広がることも期待できるところから、一貫作業のメリットは多いとの意見が寄せられました。



機械による地拵え

三、今後の課題と展望

今回事例として紹介した一貫作業の現場は、林業事業体が伐採を希望する森林所有者に働きかけて、伐採・再造林に至ったケースです。林

業事業体へ当該事業の説明や一貫作業システムを説明した結果、徐々にではありますが実施面積も増えており、高齢人工林の解消へ繋がること期待出来ます。その一方で、特に急傾斜地などの林業機械の作業困難地での作業は、一貫作業システムのメリットが少ないことが予想されます。さらに再造林や下刈り作業は相応なマンパワーが必要であります。



植え付け状況

今後は、担い手となる林業従事者の確保を図りながら急傾斜地に適応した林業機械の導入、成長の早い特定苗木の導入による保育期間の低減など一層の効率化・作業低減が必要と考えております。

団体のページ

森連だより

森林認証制度普及推進
の取組について



ここ数年、林業・木材産業を取り巻く情勢は、目まぐるしく変化してきました。

二〇二〇年にアメリカの住宅建築需要の増加に対し、建築用木材の供給が間に合わないことに起因して発生した「ウッドショック」と呼ばれる木材価格の高騰や、二〇二二年二月のロシアによるウクライナ侵攻に関連し、日本政府は、一部のロシア産材を輸入禁止措置の対象としたほか、ロシア政府も二〇二二年末まで、「非友好国」に対して、チップ、丸太、単板を輸出禁止とすることを決定するなど、私たち業界関係者も改めて木材生産・流通の不安定さを実感したのではないのでしょうか。

また近年は、気候変動による台風の大型化や、記録的な豪雨による河川の氾濫や土砂災害が頻発しており、森林の持つ機能の発揮により私

たちの生活を守ることの重要性が増しています。

このように森林・木材生産を巡る情勢に対し、適正な森林管理による持続可能な林業経営や木材生産が求められており、その取組の一つとして「森林認証制度」があります。

森林認証制度とは、独立した第三者機関が一定の基準をもとに、適切な森林の管理や経営が行われている森林を認証するものです。認証された森林から生産された木材・木材製品には、ラベルが付けられ、流通・販売されます。消費者が、ラベリングされた商品を選択的に購入することを通じて、適正な森林管理や林業経営を支援する取組で、森林管理を認証する「森林管理認証」と、加工・流通を認証する「COC (Chain of Custody) 認証」で構成されます。

県内においても、約二三、〇〇〇鈔の森林と加工・流通に関する認証を三一社が取得し、認証材の生産及び流通を行っています。当会でも認証材の継続的な認証体制構築への取組としていわき木材流通センターにおいて流通に関する認証であるCOCを取得するほか、福島県の補助を受け、森林認証制度の普及・推進を目的に「森林認証制度普及PR」、「森林認証取得費用補助」を実施し

ています。

費用補助につきましては、森林認証の取得・維持に係るコンサルタント料や定期・更新審査料等の費用の一部を補助するもので、今年度も実施しており令和五年二月二十八日まで申請を受け付けています(※1)ので、補助を受けたい方はお気軽にお問い合わせください。

県内認証材を使用した割箸



イベント会場での制度普及活動の様子

なお、補助制度の概要や申請に係る様式など詳細につきましては、当会ホームページ (<http://www.fukunori.org/>) に掲載しておりますのでご覧下さい。

※1 交付申請された額が予算に達した場合は、申請期間にかかわらず受け付けを終了します。

木の文化を育む④

里山を活かした学びと癒し

(NPO法人ヒューマンコミュニティサポートAi)

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

○はじめに

ライフスタイルの変化にともない、多くの人々が様々なストレスを感じている今日、自然や緑に接することで鬱や不安、孤独感などが改善され、メンタルヘルスの回復につながるということが認められています。里山環境を活かした活動や里山を維持管理する仕組みづくりは、私たちの「心と身体のおアシス」となるフィールドの保全と、人間力を高める力の源となっています。

○「心の病」を癒す

マイインドヘルスパーションリテイセーター(以下、MHPICと記す)代表 矢吹孝志さん(郡山市)は、「健康・教育・生きがい」に関する相談や講演活動を行うメンタルヘルスの専門家です。昭和四十九年より訪問カウンセリングの先駆けとして、北海道から沖縄まで自ら足を運び、不登校や引きこもり、ニートと言われる若者の自立支援をはじめ、神経症や鬱など「心の病」で悩む人々に寄り添い続け、解決のための支援をして

きました。また、昭和六十四年には、

MHPICの活動拠点として郡山市田村町に「自然の家 うつみね」を建設し、「里山生活」を通して社会に貢献する多目的総合健康施設を運営してきました。里山の自然を体感し「心の病」を癒すため、これまで日本全国から多くの若者が「自然の家 うつみね」を訪ねてきています。

矢吹さんは、平成十七年には、NPO法人ヒューマンコミュニティサポートAiを設立し、青少年健全育成事業をはじめ、子育て支援事業、地域市民コミュニティサポート事業など、幅広い交流支援活動を行っています。

○自然の家 うつみね

「自然の家 うつみね」は、自立支援のための「寄宿型リースクール&スペース」や、子どもから大人まで豊かな自然の中で心身をリフレッシュできるリトリート(転地療養施設)を併設し「遊学体験パーク」としても運営してきました。東日本大震災以降、原発事故や原発事故によ

る風評被害、さらには昨今のコロナ禍の影響により、以前ほどの賑わいは見られなくなりましたが、矢吹さんは里山の持つ魅力を最大限に活かし、常に今求められている地域の課題に向き合いながら、社会貢献に取り組んでいます。

○「里山名人」をめざして

自然の家 うつみねでは、里山の環境整備と自然保護活動を目的とした里山アカデミー事業を開設しています。「里山アカデミー」では、里山生活から「人と自然の共生」や「生活の知恵」里山整備に関する総合的な技術・スキルなどの習得をめざします。カリキュラムは学科と実技があり、十八歳以上の参加者を募集しています。

「里山整備を通して、市民のコミュニティスペースや里山モデルを創出し、地域デザインにつなげたい」と矢吹さん。

○里山ホームステイ

同施設では、自然豊かな里山生活を通して、心と身体と社会的健康を身につけるとともに心身のリフレッシュを図ることを目的に、全国の高校生や大学生、一般の方で里山に興味がある人を対象に「里山ホームステイ」の参加者を募集しています。ホームステイ期間中は、同施設内で実施している様々な活動に任意で参加することが出来ます。

○まとめ

自然との触れ合いの減少は「経験の消失」ともいわれています。里山の体験が健康や文化、教育など様々な面における気づきや学びにつながります。里山環境を活かした活動や里山整備のスキルを身につけ、貴方も「心と身体のおアシス」をフィールドに人間力を高める生活体験をしてみませんか。



「自然の家 うつみね」には、木立の中に点在する木の香り漂う木造ロジの他、食堂・ロビー・宿泊室・研修室・音楽コーナー・娯楽室・入浴施設などを備えた生活拠点が完備されています。バーベキューやデイキャンプにも対応しており、ウッドデッキから眺める日の出や満天の星空は最高です!

木材市況

素材の価格〈工場着価格〉(2022年9月15日現在)

(単位: m当たり千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	10 (10~10)	0	(0~0)		11 (11~11)	0	10 (10~11)	0
		10~14		並	スギ	17 (16~17)	1	(0~0)		14 (14~14)	△2	16 (14~17)	0
	中	14~22	3.00	並	スギ	17 (16~19)	0	17 (17~17)	0	15 (15~15)	△2	16 (15~19)	△1
				並	ヒノキ	19 (19~19)	0	(0~0)		19 (18~20)	△4	19 (18~20)	△2
		20~28	6.00	並	スギ	20 (17~22)	0	12 (12~12)	0	22 (21~22)	1	19 (12~22)	0
				並	ヒノキ	30 (30~30)	0	(0~0)		29 (29~29)	0	29 (29~30)	△1
			3.65	並	スギ	15 (15~16)	△1	14 (12~17)	0	13 (12~14)	△1	14 (12~17)	0
				並	スギ	14 (14~16)	△1	13 (12~14)	0	13 (12~15)	△1	14 (12~16)	0
	4.00	並	アカマツ	11 (10~12)	0	(0~0)		10 (10~10)	△1	11 (10~12)	0		
		並	アカマツ	11 (11~11)	0	(0~0)		9 (9~9)	△1	10 (9~11)	0		
	外	30以上	10.00	並	米ツガ	(0~0)		(0~0)		38 (38~38)	0	38 (38~38)	0
				並	米マツ	(0~0)		(0~0)		40 (40~40)	0	40 (40~40)	0
材	28以下	3.80	並	エゾマツ	(0~0)		(0~0)		36 (36~36)	1	36 (36~36)	1	
			並	アカマツ	(0~0)		(0~0)		36 (36~36)	1	36 (36~36)	1	
		4.00	並	アカマツ	(0~0)		(0~0)		36 (36~36)	1	36 (36~36)	1	
			並	カラマツ	(0~0)		(0~0)		36 (36~36)	1	36 (36~36)	1	
パルプ用材			並	マツ	7 (7~7)	0	(0~0)		(0~0)		7 (7~7)	0	
			並	広葉樹	10 (10~10)	0	(0~0)		(0~0)		10 (10~10)	0	

八月の原木市場への入荷量は、前月比二割減(前年比変わらず)の二〇、六三九立方メートルとなっている。
 販売量は、前月比二割減(前年比変わらず)の二〇、五六二立方メートルとなっている。
 九月の価格は保合いとなっている。

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(0~0)		7 (6~8)	0
	13~14		並	カラマツ	(0~0)		8 (7~8)	0
	16以上		並	カラマツ	(0~0)		9 (8~11)	△1

注) 1. 前月差の△印は値下りを示す。
 2. () 内は各地域の価格幅、() 外は各地域の平均的価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
 4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

「高子二十境」は江戸時代の儒学者、熊阪霸陵(一七〇九―一七八四)が高子村内の風光明媚な景勝地を二〇箇所選び、みずから名づけたもので、伊達市保原町の高子地区、阿武隈急行「高子駅」を中心に半径三〇〇〜九〇〇メートルほどの楕円形の範囲のゆるやかな丘陵上に配されています。

二〇箇所は①丹露盤②玉兎巖③長嘯嶺④龍脊巖⑤採芝崖⑥帰雲窟⑦将帰坂⑧狸首岡⑨隠泉⑩高子陂⑪不羈坳⑫拾翠崖⑬返照原⑭走馬嶺⑮白鷺峰⑯雫山⑰禹父山⑱愚公谷⑲白雲洞⑳古樵丘と名付けられています。

高子二十境の二〇の名称は中国の長安(現在の西安)の郊外に詩人王維が創った「輞川(もうせん)二十景」を真似たもので、そのために中国的な難解な漢字になっています。



ふくしま伊達の名勝「高子二十境」

福島県北農林事務所 村上宜己

また、高子二十境には高名な画家谷文晁や地元の家周俊が画いた二十境図も残されており、当時と変わらない風景も残されています。

歴史的に、文化的に、福島県を代表すると言っても過言ではない(？)景勝地「高子二十境」を散策してみたいかがでしょうか。



二十境の第一 丹露盤

二十境の第十九 白雲洞



はなしの
ひろば

曖昧な妙

この一年を振り返ってみると「この歳になるとわかるよ」と、今は亡き母の言葉を幾度となく思い出すようになっていた。かつての自分は、母親からその言葉を聞く度に、どこかうまく丸め込まれたような気がして、納得がいかなかったものだが、今になってよくわかるようになってきた。（歳を重ねるとはこういうことなのだ）と私もまた、具体的には説明ができないまま、会話の中にこのフレーズが入ってくるようになってきた。

しかし、同年代になると、この曖昧なフレーズが、妙に通じるのが嬉しい。頷きながら共感している。

そして、この「曖昧」だが、以前、建築家が、日本家屋の軒下と縁側は「曖昧な妙だ」と表現していたことを思い出した。我が家にも軒下と縁側があるが、縁側は廊下でも部屋でもないが、決して無駄な空間ではない。

そんな話を思い出しながら「この歳になるとわかるよ」というフレーズは、曖昧だが妙味があり、話を決して「有耶無耶」にすることではないような気がしてきた。

今日は、小春日和。薄い青の空に、少し灰色かかった白の絵の具のチューブをしぼったような雲が浮かんでいる。見慣れている空の風景だが、令和四年十二月の今日の空だと思おうと雲にも心寄せてみたくなる。

一日一日、今年も暮れていくが、皆さんにはどんな一年だったろうか。

(都)

表紙の写真



「木目アート」

第19回ふくしま森林・林業写真コンクール
優秀賞（県森林・林業・緑化協会賞）
受賞者 涌井 弘巨さん（福島市）
撮影場所：猪苗代町 はじまりの美術館
コメント：木目を美しく表現して芸術性を感じ撮影した1枚です。

編集

発行人

福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番一八号県林業会館内
飯沼 隆
陽光社印刷株式会社
（定価 一〇〇円）

お知らせコーナー

第55回花いっぱいコンクール受賞者決定

花を愛する心と豊かな情操をはぐくみ“郷土を花と緑で飾ろう”の趣旨のもと、提唱してきた「福島県花いっぱい県民運動」の一環として実施された「第55回花いっぱいコンクール」の受賞者が決定され、令和4年11月30日（水）、福島民友新聞社において表彰式が行われました。

今回は、コロナ禍の影響が続く中ではありますが、学校や企業、団体など34団体の参加をいただきました。こうした状況下においても、変わらず花の育成活動に取り組まれている皆様にご心より感謝申し上げます。

なお、受賞された団体は、次のとおりです。

受賞者団体

福島県知事賞	喜多方市立上三宮小学校
福島県教育委員会教育長賞	白河市立白河中央中学校
福島県森林・林業・緑化協会賞	喜多方市立第一小学校
福島民友新聞社長賞	青柳地区花いっぱい運動（南会津町）
農林中央金庫福島支店長賞	喜多方市立松山小学校
奨励賞	桑折町立醸芳小学校
	福島製鋼株式会社（福島市）
	南相馬市立原町第二小学校
	北塩原村立さくら小学校
	喜多方市立第一中学校 喜多方市松山公民館 花の楽校



県知事賞表彰（上三宮小）



公民館へ育てた花をプレゼント
（県知事賞・上三宮小）

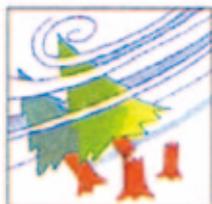
備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



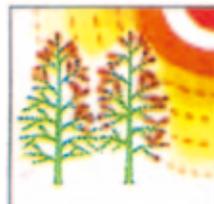
3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



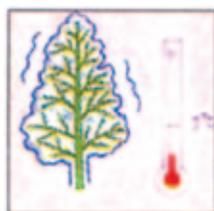
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合

イワフジのGPシリーズ
グラップルプロセッサ

GP-35B

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

製品情報



傾斜地に対応した全旋回チルトプロセッサ

- ・最大38度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- ・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- ・サイドカット解除機能により曲がり材に対応
- ・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材
- ・GP-8コントローラを搭載
- ・新開発のスタッドローラ(オプション)

For the future with forest

イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>



(仙台支店) 〒981-3133 宮城県仙台市泉区中央1丁目16-6
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699

(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1

(支店) 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中四国・九州



いざという時、あなたの備えは万全ですか?
福島ミドリ安全の防災対策

- 企業防災のご提案
- 保管スペースのご提案
- 災害時のゴミ対策



その日を恐れるのではなく、その日に備える



福島ミドリ安全株式会社
代表取締役社長 白石昇央

【本社】〒963-8550 福島県郡山市桑野4-1-22
TEL.024-923-5178・FAX.024-923-5211
E-mail info@f-midorianzen.co.jp



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

ZHM1550RR



SR3100

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc



刈幅：1500mm 出力：27.5kW



破砕径：200mm 出力：18.4kW



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店
(有) うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1